

庭の始まり



鈴木康広
SPONTANEOUS GARDEN
YASUHIRO SUZUKI

2017.8.5 - 2018.2.25

会場：彫刻の森美術館 本館ギャラリー／マルチホール 主催：彫刻の森美術館（公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）
後援：箱根町／箱根町教育委員会／フジサンケイグループ 協力：異才発掘プロジェクトROCKET／有限会社イリス・アソシエーツ／株式会社ゴトー工業
株式会社セイコープラスチック／東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野／東芝ライテック株式会社／トキ・コーポレーション株式会社
パイフォニクス株式会社／堀永紙工株式会社／マグネットフォース株式会社／武蔵野美術大学空間演出デザイン学科／株式会社メディアタージ
会場構成：ARIWORKS／株式会社クロス

神奈川県足柄下郡箱根町ニノ平1121 www.hakone-oam.or.jp

彫刻の森美術館では、現代の新しい創作表現を紹介するシリーズの第7回として、「鈴木康広 始まりの庭」を開催いたします。

鈴木康広は、何気ない自然現象を見つめ直し、新たな感覚で翻訳した作品を制作しています。作品の題材は日常の中にあっても、鈴木の見点がそこに加わると当たり前前に存在していたものに新たな発見が生じます。その瞬間の驚きが痛快で、思わず微笑んでしまうことでしょう。鈴木の見立てを巧みに具現化した作品の前では、子どもから大人まで、あらゆる世代の鑑賞者が一度は同じ視点に立ちながら、見る側それぞれが培った体験や環境によって異なる気づきも加わります。

本展では、性質の異なる3つの展示室で構成された本館ギャラリーを舞台に、新作11点を含む71点を展示。また第2会場のマルチホールでは、鈴木代表作品《まばたきの葉》など、“まばたき”をテーマにした作品4点を紹介します。さまざまな実験が潜む作品の庭を散策し、新たな記憶と発見の始まりの場となれば幸いです。

つきましては、「鈴木康広 始まりの庭」を貴媒体上で是非ご紹介いただきたく、周知・告知活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

■ 展覧会情報

【展覧会名】	鈴木康広 始まりの庭
【会 期】	2017年8月5日（土）～ 2018年2月25日（日）
【会 場】	彫刻の森美術館 本館ギャラリー / マルチホール (〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121)
【開館時間】	9:00～17:00（入館は閉館の30分前まで）
【休 館 日】	なし（年中無休）
【入 館 料】	大人1,600円 / 大・高校生1,200円 / 中・小学生800円
【交通手段】	箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩2分
【主 催】	彫刻の森美術館（公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）
【後 援】	箱根町 / 箱根町教育委員会 / フジサンケイグループ
【協 力】	異才発掘プロジェクトROCKET / 有限会社イリス・アソシエーツ 株式会社ゴトー工芸 / 株式会社セイコープラスチック 東京大学先端科学技術研究センター 人間支援工学分野 東芝ライテック株式会社 / トキ・コーポレーション株式会社 パイフォニクス株式会社 / 福永紙工株式会社 マグネットフォース株式会社 / 武蔵野美術大学空間演出デザイン学科 株式会社メディアタージ
【会場構成】	ARIWAKS / 株式会社クロス
【出品点数】	本館ギャラリー 71点（うち、新作11点） マルチホール 4点 合計 75点

※展示作品数は新作11点。合計75点に変更となりました。

■ 開催イベント

【アーティスト・トーク】	
1回目	11月11日（土） 13:30～
2回目（予定）	12月23日（土・祝） 13:30～

※1回目の実施は決定しておりますが、2回目が現在調整中のため予定としております。

※イベントの詳細は、決定後に当館HP等にてお知らせいたします。

■本展覧会の主旨とみどころ

鈴木康広（1979年静岡県浜松市生まれ）は、日ごろ見逃してしまいそうなモノや自然現象を鋭い感性で別のものに見立てた作品を発表する作家です。2001年にNHKの番組「デジタル・スタジアム」で発表した映像インスタレーション《遊具の透視法》が、最優秀賞を受賞以来、展覧会やデザインなどさまざまな方面で活躍しています。

2003年に発表した《まばたきの葉》は、美術館のみならず多くのパブリックスペースで話題を呼び、2009年に羽田空港で開催したデジタルパブリックアート「空気の港」ではアートディレクションを担当しました。2010年の瀬戸内国際芸術祭では、船の航跡をファスナーが海を「開く」ように見立てた《ファスナーの船》が話題を呼び、2014年の水戸芸術館での展覧会「近所の地球」や「パラパラマンガ商店街 in 水戸」を展開。2016年には「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ」に日本代表として出展しました。



撮影：中川正子

鈴木康広 Yasuhiro Suzuki

1979年静岡県浜松市生まれ。2001年東京造形大学デザイン学科卒。日常のふとした発見をモチーフに、誰もが知っているものを新鮮な感覚で捉え直す作品を制作。国内外の展覧会をはじめ、パブリックスペースのコミッションワーク、大学の研究機関や企業とのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。代表作に《ファスナーの船》《まばたきの葉》《空気の人》など。2014年には水戸芸術館にて個展を開催、金沢21世紀美術館で「鈴木康広『見立て』の実験室」を開催。2016年、「第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ2016」に日本代表として公式参加。2014毎日デザイン賞受賞。作品集に『まばたきとはばたき』『近所の地球』（ともに青幻舎）、絵本『ばくのにゃんた』（プロンズ新社）がある。現在、武蔵野美術大学空間演出デザイン学科准教授、東京大学先端科学技術研究センター中邑研究室客員研究員。

展覧会のタイトル「始まりの庭」について

「始まりの庭」は、2008年に21_21 DESIGN SIGHTで開催された三宅一生ディレクション「21世紀人」展に出品した作品名が元になっています。自分の身体への意識を、空気と水を媒介に環境へと意識の触手を伸ばしました。空気の中の水が温度差によって露わになる「結露」という現象に、人間を取り巻くさまざまな事象を見立て、他者としての自然との連続性を保ちながら、人（僕）が生きていくヒントを見出す場を「庭」と考えました。その後、10年間のさまざまな制作によって、テーマが少しずつかたちになってきました。

万物の源とされる水と目には見えない空気の振る舞いやそのゆらぎ。そこには、社会や世間と呼ばれる、人と人、人と環境との関係性を見つめ直すヒントが隠されているように思います。人間が生み出したと思われがちな現代の都市や環境を今一度、自然の物理現象の姿を通して見つめ直したいと考えています。銅管の表面で起こる水滴の生滅のように、滞りなく変化を続ける微細な自然現象に心と身体を寄せていくことで、人間の意図を超えた、自然発生的、偶発的なものの中に人間と自然との接点を再発見したいと考えています。（鈴木康広）

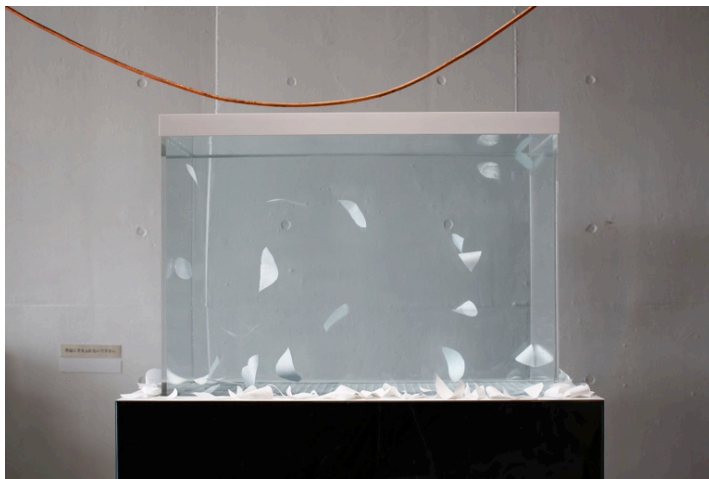
■作品紹介（コメント:鈴木康広）

○ 新作の展示 独自の方法で自然現象を見つめ直す新作11点を本展に合わせて発表します。



＝新作＝《空気の涙》2017年

銅管の中に冷水が流れている。展示室の空気との温度差によって結露が起こる。そこに、気持ちの温度差から湧き出す人間の涙を連想。水滴が生滅する微細な変化やその揺らぎに、人を取り巻くさまざまな様相を見立てる。



＝新作＝《水に舞う葉》2017年

空中に舞う葉のように、水に舞う葉の姿を見る。植物の繊維を原料に水の中で生まれた紙が再び水に戻る。「水」に「戻」と書く「涙」という文字に思いを馳せる。

＝新作＝《温床の人》2017年

葉脈を刻んだ濡れた葉を乾かすための温かい人型の床。紙の葉に浸み込んだ展示室の水分を再び空気の中に戻す。人の輪郭をはみ出した紙の葉が床に落ち、ゆっくりと空間に広がっていく。



＝新作＝《軽さを測る天秤》2017年

水分を含んだ紙の葉を皿に載せると、乾燥とともに傾きが変化する。そのゆるやかな動きを感じ取るための天秤。大きな天秤ほどゆっくりと、小さな天秤ほど変化が見える。天秤は右手と左手の感覚を統合する身体の模型。



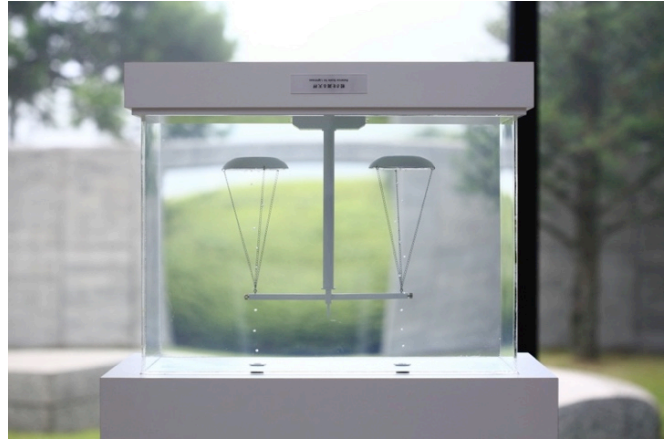
■作品介绍（コメント:鈴木康広）



=新作= 《自然を測るメトロノーム》2017年
1秒から1万年まで、往復の周期を設定できるメトロノーム。動いて見えないもの、変化を測れないものとの向き合い方を考える。展示では1分で1往復する設定。展示室から見える木々、彫刻、山の見方が変わる。



《日本列島の方位磁針》2011年
水に浮かべることで日本列島の方位がわかる。
東西南北という概念を介さないリアリティー。



=新作= 《軽さを測る天秤》2017年
逆さまの皿にゆっくりと泡が溜まっていく。空気が溜まると軽いか重いかかわらなくなる。泡が溢れると偶然、釣り合うこともある。どうなるかわからない均衡状態に人の目が釘付けになる。長時間、見つめていられる感覚。



=新作=
《上/下の彫刻》2017年
上から見ると「上」、下から見ると「下」になっていることに気づいた瞬間、上と下は客観的なものではなく、見る側の視点そのものであることに気づいた。上/下のプレートを重心で吊り、磁力を着けた。磁力と重力が作用する彫刻。

■作品介绍（コメント：鈴木康広）



《りんごが鏡の中に落ちない理由》2003年
もしも鏡を知らなかったら床に穴が空いていると思うのでは。鏡と知っていても穴に見えている。りんごを落とそうとしても、もう1つのりんごが反対から現れてそれを阻む。作用・反作用の法則を習った時の違和感を思い出す。



《空気の人（北京）》2017年
目に見えないけれど、実際にはさまざまな分子が詰め込まれ、「ない」ようで「ある」空気の不思議な存在感。《空気の人》とは、それを目の当たりにして、その場を立ち去ったあと、頭の中に残る気配の人。



＝新作＝《紙の葉》2017年
紙は温度や湿度の変化によって、空気中の水を呼吸している。葉形の紙を展示室の空気から結露した水に浸し、葉脈をエンボスする。紙の葉を媒介に、来場者の手によって空気と水の交換が繰り返される。



《近所の地球 旅の道具》
2001年から作品制作を通じて、近所（＝身近なもの）と地球（生身の人間の認識を超えた世界）の新たな接点に着目。「いま／ここ」と「いつか／どこか」をつなぐ旅の道具を鞆に詰めた。

○ 主題別に分けられた庭

「空気と水」「反転」「瞬間」などのテーマによって、本館ギャラリーやマルチホールの空間を「庭」に見立てた構成をします。会場を一步出ると、そこには彫刻の森美術館の屋外展示場が広がります。始まりの庭で鈴木の目を通した世界に触れると、野外彫刻の見方も変わってくるかもしれません。

本館ギャラリー2F 【見立ての庭】



本館ギャラリー1F 【空気と水の庭】



本館ギャラリー中2F 【反転の庭】



○ 代表作《まばたきの葉》を展示

マルチホールには、2003年に発表した鈴木康広の代表作《まばたきの葉》のほかに、目を閉じた瞬間を撮影する体験型の作品《まばたき証明写真》、1分ごとにめくれる《まばたきの時計》など、「まばたき」をテーマにした作品を展示します。「まばたき」は鈴木が作品制作を開始する上で基本となったモチーフであり、《まばたきの葉》は「木」あるいは「葉」というかたちに目を向けることで、人間の視点を超えて世界の見方を広げるヒントとなった作品です。鑑賞者にとって、本館ギャラリーの展示をさらに深く読み解く鍵となることでしょう。

マルチホール 【瞬間の庭】



《まばたきの葉》

「まばたき」は自分の体の一部でありながら自ずと起こる自然現象。意識と無意識の間にある微妙なラインに興味を持っていました。

「まばたき」にまつわるさまざまな作品を作っていくうちに「葉」と「目」が1つになり、思いがけず「木」という形に出会いました。2003年以来、来場者の手によって多くの場所に「まばたき」を繁らせてきました。今年で樹齢14年。人と自然をつなぐヒントを温存している「木」のかたちに寄り添うことで、世界の見方が変わるような気がしています。（鈴木康広）

【出品作品リスト】

青・・・新作(11点) 緑・・・新規制作(2点) オレンジ・・・更新(1点)

本館ギャラリー1階 / Main Gallery, First Floor 9点		
作品名		制作年
1 紙の葉	Paper Leaf	2017
2 空気の涙	Aerial Tears	2017
3 器の人	Silhouette Vessel	2014
4 水の切り株	Stump of Water	2008
5 大気のグラス	Glass of Atmosphere	2014
6 軽さを測る天秤	Balance Scale for Lightness	2017
7 砂漠のコップ	Desert Glass	2014
8 水に舞う葉	Swimming Leaves	2017
9 温床の人	Hot Being	2017

本館ギャラリー中2階 / Main Gallery, Mezzanine Floor 5点		
作品名		制作年
10 ルーペの節穴	Magnification Lens	2017
11 りんごが鏡の中に落ちない理由	Why an Apple Doesn't Fall into the Mirror	2003
12 自然を測るメトロノーム	Nature's Time Metronome	2017
13 軽さを測る天秤	Balance Scale for Lightness	2017
14 表裏のコップ	Double-Faced Glass	2014

本館ギャラリー2階 / Main Gallery, Second Floor 12点		
作品名		制作年
15 上/下の彫刻	Up/Down Gravity and Magnetic Sculpture	2017
16 自然を測るメトロノーム	Nature's Time Metronome	2017
17 蛇口の起源	The Origin of the Word "Jaguchi"	2006
18 木漏れ日のノート	KOMOREBI NOTEBOOK	2016
19 キャベツの器	Cabbage Bowls	2004
20 りんごのけん玉	Apple Kendama	2003
21 空気の人	Aerial Being	2007
22 りんごの天体観測	Constellation of Apples	2016
23 理想の色鉛筆	Ideal Color Pencils	2017
24 ファスナーの船	Zip-Fastener Ship	2004
25 地球展開儀	Opened Globe	2011
26 大きな空気の人	Large-Sized Aerial Being	2009

本館ギャラリー2階【アクリルトランクモニター】 / Main Gallery, Second Floor [Acrylic Trunk Monitor] 3点		
作品名		制作年
27 時間を測るスプーン	Spoon to Measure Time	2004
28 日本列島の方位磁針	Compass of the Japanese Islands	2011
29 地平線を描く鉛筆	Pencil to Draw the Earth Horizon	2002
水平線を描く鉛筆	Pencil to Draw the Sea Horizon	
地球線を描く鉛筆	Pencil to Draw the Earth Line	

マルチホール / Multi Hall 4点		
作品名		制作年
72 見立ての標本	Specimens of "Mitate"	2017
73 まばたきの葉	Blinking Leaves	2003
74 まばたき証明写真	Blinking ID Photo	2011
75 まばたきの時計	Blinking Time	2003

本館ギャラリー2階 【トランク内】 / Main Gallery, Second Floor [Trunk] 43点		
(展示作品順 / exhibit order)		
作品名		制作年
【1段目】14点		
30 上/下の模型	Up/Down Model	2014
31 表裏のコップ	Double-Faced Glass	2014
32 りんごのコップ	Apple Lens	2016
33 器の人	Silhouette Vessel	2014
34 脳の人	The Thinker	2015
35 りんごのけん玉	Apple Kendama	2003
36 りんごの足銅	Apple Weight	2013
37 背中の中の遠近法	Perspective of the Back View	2014
38 境界線を引く鉛筆	Pencil to Draw Boundaries	2002
39 りんごが鏡の中に落ちない理由	Why an Apple Doesn't Fall into the Mirror	2003
40 自画像のパズル	Self-Portrait Puzzle	2005
41 屋根のベンチ	Roof Bench	2012
42 銀閣寺のチョコレート	Chocolate Ginkaku-ji Temple	2007
りんごのこま	Spinning Top Apple	2005
【2段目】15点		
44 足元の展望台	Underfoot Observation Deck	2014
45 空気の手紙	Aerial Letter	2010
46 手の石鹸	Hand Soap	2012
47 レンズの人	Lens Being	2016
48 足の箸	Toe Chopsticks	2013
49 月のゴルフボール	Moon Golf Ball	2014
50 ここ/そこ	Here/There	2002
51 現在/過去	Present/Past	2002
52 木のこま	Spinning Top Trees	2010
53 等倍レンズ	Magnifying Glass	2016
54 地球の中心を指すコップ	Glass Pointing to the Centre of the Earth	2014
55 日本列島の方位磁針	Compass of Japanese Islands	2011
56 イギリスの方位磁針	Compass of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland	2016
57 自分の日時計	Sundial of Oneself	2014
58 水平線の話	Note from the Sea Horizon	2005
【3段目】8点		
59 気配のクッキー	Cookies Sensed But Not Seen	2005
60 顔のスプーン	Face Spoons	2014
61 木漏れ日のノート	Komorebi Notebook	2011
62 ?のあめ	? Candy	2005
63 未知の判子	Unexpected Stamps	2002-
64 椅子の音符	Eighth Note Chair	2001
65 目薬の銃	Eye Dropper	2005
66 時間を測るスプーン	Spoons to Measure Time	2004
【4段目】5点		
67 バケツの切り株	Bucket Stump	2007
68 キャベツの器	Cabbage Bowls	2004
69 ファスナーの船	Zip-Fastener Ship	2004
70 無限の回転体	Endlessly Rotating Body	2014
71 気分を測るメトロノーム	Measuring for Feeling Metronome	2017

画像請求フォームVol.2 (2017.9.13 配信)

希望される画像の□にチェックをいれて、FAXまたはメールにてお送りください。

FAX 0460-82-1169 mail: press@hakone-oam.or.jp

チェック	No.	作品名
	1	《りんごが鏡の中に落ちない理由》2003年
	2	《空気の人（北京）》2017年
	3	《日本列島の方位磁針》2011年
	4	《まばたきの葉》2003年 撮影：木奥恵三
	5	《自然を測るメトロノーム》2017年 撮影：木奥恵三
	6	撮影：木奥恵三
	7	撮影：中川正子

ご掲載にあたっての注意事項

※ 展覧会名、会期、会場名、作品名を必ずご掲載ください。

※ 画像は、メールにてデータをお送りします。お手元に届くまでのお時間を1～2日ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※ 作品のトリミング、文字載せはお控えください。Webでのご掲載は、画像にコピーガードを施してください。

※ ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。会期終了日（2018年2月25日）以降の画像使用は一切認められませんので、ご注意ください。

※ 事前に記事原稿を拝見させていただきますよう、お願いします。

※ 掲載紙・雑誌、ビデオ・DVDを一部ご送付ください。Webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。

媒体名

御社名

ご担当者

所在地

電話

メール

発行日・号数

年

月

日

号

☐ 予定

☐ 決定

読者プレゼント用チケット（5組10名様分）をご希望される方は☐にチェックを入れてください。 ☐希望する

※チケットはWebサイトへのページアップのご連絡、または掲載紙・誌の到着後の発送となります。

■展覧会内容や作品詳細に関するお問い合わせ、取材のリクエスト、及び掲載用写真の請求は
下記宛にお願いいたします。

彫刻の森美術館 〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平1121 TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169
広報担当：辻井 press@hakone-oam.or.jp 展覧会担当：福岡、有田

彫刻の森美術館
THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM

貸出画像情報

画像請求フォーム (2017.9.13 配信)

1. 《りんごが鏡の中に落ちない理由》 2003年



2. 《空気の人（北京）》 2017年



3. 《日本列島の方位磁針》 2011年



4. =新画像= 《まばたきの葉》 2003年



撮影：木奥恵三

5. =新画像= 《自然を測るメトロノーム》 2017年



撮影：木奥恵三

6. =新画像= 本館ギャラリー 展示風景



撮影：木奥恵三

7. 鈴木康広 ポートレート



撮影：中川正子